西東京三田会

－News Letter 28－　（2023.4.1）

西東京三田会ホームページ　http://nishitokyo-mitakai.net/

令和５年度総会を開催いたします

令和５年度の総会を開催いたします。
近年はコロナ禍により完全な形での総会・懇親会を開催することができませんでしたが、ようやく今回から例年通りの形で開催できることとなりました。
対面での総会、飲食を伴う懇親会となりますので久しぶりに顔を合わせる仲間と旧交を温める機会となります。初めて参加なさる方には、西東京三田会の雰囲気を感じていただく機会となることでしょう。
また、今回の総会では例年の議案のほかに役員改選の審議が行われます。
みなさまの出席をお待ちしております。
会員のみなさまには４月中旬頃に往復はがきにて総会・懇親会の開催に関するご案内をするとともに、出欠確認いたしますので、返信はがきにてご連絡いただきますようお願いいたします。
総会・懇親会の日程は以下の通りです。

【総会】
・日程：令和５年５月 20 日（土）午後３時 30 分から　（午後３時から受け付け開始予定）
・会場：コール田無 イベントホールＡ

【懇親会】
・日程：令和５年５月 20 日（土）午後６時から
・会場：コール田無 イベントホールＡ・Ｂ

＊コール田無
西東京市田無町３－７ －２
田無駅北口徒歩７分

新入会員のご紹介

・吉川 潔（昭和 46 年経済学部卒）

再入会のご挨拶

出戻り会員です。といっても、小平三田会と離縁したわけではなく、顧問として残って居ります。創立以降 5 年間会長職に在りましたが、後半はコロナ禍に見舞われ思うような活動は叶わず残念な期間でした。昨年の総会で規約により会長を降りることになり、肩の荷を下ろしほっとしていたところ、妻から「西東京の会員に戻れば・・。」との話が出て「あーそれもいいな」と思いました。皆様のお顔と、暖かい空気を思い出し、一会員として再入会させていただくことに相成りました。参加できる企画には、またご一緒させてください。

尚、私が世話人をしている「小平三田会作品展」「小平三田会なんでも知ろう会」からは、皆様にお誘いの知らせが届く場合がありますが、ご興味がありましたらどうぞご参加ください。今後ともよろしくお願いいたします。

・笠原　碩昭（昭和 41 年　工学部卒）

昭和 17 年 10 月信州は長野県岡谷市で生まれ、諏訪清陵高校卒業後、慶応義塾大学藤原記念工学部管理工学科では、基礎工学を含めて経営管理、統計管理、コンピューター，システム工学、自動制御、インダストリアルエンジニアリング等々を学び、沖電気工業㈱に入社し、芝浦事業所の生産技術部門に配属されました。

電気・電子機器の部品から装置に至るものづくりプロセスの開発・設計・構築・改善改革を担当し、特に工作機械と、設計のコンピューター化を実現しました。この間に労働組合の役員に推挙されました。その後、設備管理、購買、海外研修、生産技術開発部門などを経て、42 歳の時、本田技研との合弁会社（電子技研㈱/宮城県）に沖電気代表として出向となり、車の電子化・生産・品質・収益戦略に取り組みました。

電気・電子機器製造会社と車製造業会社との企業文化や価値感の差異に大きな刺激を得て、宮城県で楽しく充実な日々と経験を積むことが出来ました。沖電気工業に戻り、静岡県の沼津工場を経て、港区虎ノ門在の本社では、全工場の生産・品質・環境・海外調達の統轄、生産戦略の促進、業界団体への参画も経て、子会社の沖エンジニアリング㈱のトップのお招きで転籍し、大幅な業容改革・収益向上を成し遂げ、定年となった時に㈱日本環境認証機構からのお招きもあり「ISO」審査員となり、多様な組織様の持続的発展にお役に立てればとの思いで審査業務に取り組んでいるところです。

・越谷　重友（平成３年　大学院経営管理学科修士課程修了）

鳥取も東京もわたしのふるさと

1936 年鳥取県鳥取市で、両親共小学校教諭の家庭６人兄弟の末っ子として生まれ、高校卒業までの 18 年間を親元で過したいわば少年時代の思い出が詰まったふるさとである。

鳥取西高卒業と同時に上京し、もう一つのふるさと東京では、中野区野方→保谷市→西東京市での生活が始まり、大学６年（東京外大英文科２年で中退、早稲田大学第一法学部卒の２校）・キリンビール（株）勤務 41 年、慶応義塾大学ビジネススクール修了、以後セカンドキャリアを生かして現職の企業の事業再生案件対応経営コンサルタント職 23 年、国立中小企業大学校中小企業診断士養成講座講師５年、通算 64 年の現役人生街道の途上にある。

鳥取での少年時代の思い出は、戦中・戦後の混乱期であったため、両親・姉との生活体験を抜きには語れない強烈な想い出が脳裏に鮮明に焼き付いている。

我がふるさと鳥取は、皆様よくご存知の文部省唱歌

うさぎおいし　かの山　こぶなつりし　かの川・・

と唄い継がれている「ふるさと」の作曲家岡野貞一の出身地でもあり、口ずさむにつけ楽しかったこと、辛かったことが詰まった望郷の念に駆られ胸が熱くなる想いを、未だにしばしば痛感している。る想いを、未だにしばしば痛感している。

もう一つのふるさと東京では、大学進学をきっかけとして上京し、人間として、社会人、企業人として自分が通用するか愈々試される不安と希望が交差した中で、東京中野区の兄宅での下宿生活からスタートした。

会社勤務途上の 30 年前に西東京市に居を構え、保谷・西東京両稲門会に入会した頃から、「仕事だけが人生ではない」との信念のもとに、第２のふるさと西東京でも何か社会にお役立てしなければと強く思い早速始めたのが健康維持・老化防止を兼ねて毎日「いち 1→一つ以上社会に役立つ善いことを実行する・じゅう 10→十回笑いましょう・ひゃく 100→百文字書きましょう・せん 1,000→千文字読みましょう・まん 10,000→万歩歩きましょう」、とりわけ社会貢献を極力意識して励行し、自分に対し常に緊張感を維持させている。

また、近年では関東在住の早大 OB と現役学生で構成の有志稲門会「関東鳥取県稲門会（270 名）が発足、初代の会長として母校への協力、故郷への貢献等を通して両ふるさとジョイントの下に旧交を温めている。

傘寿を過ぎ、「これまでの人生の棚卸のもとに」良かれと思うことには挑戦
を怠らず、悔いを残さない日々を送りたいと願っている。

現在、日本生産性本部認定経営コンサルタントとして我が国経済のダイナミズムの源泉である中小企業に指導・助言していくことを使命としている。

サークル活動・・・今後の活動予定

竹の子掘りを楽しむ会

例年、新緑の季節に東久留米三田会の野崎陽一さんの竹林をお借りして竹の子掘りを楽しんでおります。いつも小さなお子さん、お孫さんを含む家族連れが多数参加されます。野崎さんから竹の子掘りのコツを教えていただき、茹でるための糠袋もいただきます。1本当たり200円をお支払いしています。

今年は4月23日（日）の予定で、既に「三田会通信」でご案内しています。広い敷地内の自然の緑もご堪能下さい。

高橋信一（S47工）

麻雀の会

暦年ベースで年間実施計画を立てており、2023年は2月19日、5月21日、8月20日、10月22日、12月17日と5回設定しました。このうち2月19日はまだコロナの余韻があり中止しましたが、2回目以降は実施できると考えています。

時間は13時から17時ころまで、場所は従来どおり西東京郵便局北側の「Pジャン」で、貸し切りではないので一般客の喫煙は気になりますが和気あいあいの雰囲気で楽しめます。各実行計画日の2～3週間前に愛好者には改めて通知されます。

原護（S45法）、栗原幸雄（S39法）

神宮野球応援会

春季、秋季各 1～2 回実施したいと考えています。野球もさることながら、青空の下での軽い飲食を伴う気軽な懇親の機会になります。実施日時等は事前にご通知いたします。

樋口明朗（S43 経）

グルメ会

新型コロナ禍による行動規制の緩和など正常に、戻りつつあります。
今年から懇親会も含めた見学会を計画したいと思います。
年 2 回を予定したいと思います。

小笠原寿男（S57 経）

ブルーベリー摘みの会

毎年お楽しみ頂いている「ブルーベリー摘み」を今年も予定しています。例年どおり東久留米三田会の野崎さん経営の果樹園を予約して。7 月末か 8 月初めの休日に実施する予定です。

食べ放題ではありません。（試食は可能です）摘み取り後、計量して重さに応じ代金を支払い持ち帰るシステムです。（昨年例では 180 円/100g）

ブルーベリーはアントシアニンを含み、健康に効果があると言われています。大自然の恵み、パワーの源のブルーベリーを摂取して暑い夏を乗り切りましょう。詳しくは 7 月の初めころ E メールでご案内します。

宮本敬一（S46 工）

歴史散歩会

従来は市内歴史散歩として 11 回ほど実施してきましたが、エリアを広げるとか時間帯も半日にこだわらぬようにするとか工夫して年度間で 2 回くらい実施できたら、と考えています。

樋口明朗（S43 経）

写真･作品展

10 月に西武柳沢駅前の柳沢公民館 1 階ロビーで写真・作品展を開催いたします。日程は 4 月始めに決定次第、「三田会通信」でご案内します。会員及びその家族の皆さんの日常の趣味の活動の中から写真、水彩画、アクリル画、油彩画、書、版画、人形、著作など何でも展示します。小平三田会、杉並三田会、西東京稲門会からも出品していただいています。展示初日には内覧会をやり、各自の制作意図を話していただきます。最終日には打上げ会もやっています。会員だけでなく、公民館・図書館にお出でになった方々が作品をご覧になって、批評をして下さいます。一般市民との交流の場になっています。

高橋信一（S47　工）

ゴルフ会

西東京三田会ゴルフ会の今後の活動予定

・5 月 31 日

飯能グリーンカントリークラブにおいて、第 2 回西東京慶早校友ゴルフ会を開催予定、今回は 9 組を用意し、最大 36 名の参加を見込んでいます。

まだ枠は若干余裕がありますので、これをご覧いただき参加希望がございましたらゴルフ会までご連絡下さい。

・11 月～12 月

高坂カントリークラブにおいて、第 3 回西東京早慶校友ゴルフ会の開催を検討中、組数、参加人数は未定です。

連絡先（宝井繁夫：s.takarai@jcom.home.ne.jp）　(S52 商)

ハイキング会

コロナ禍と愛好者高年齢化で、アップダウンへの抵抗が出てきていて、長らく実施されずに今日に至っています。散歩会的にやや歩行を優しくして他のサークルと合体して実施できたらと構想しています。年度 2～3 回実施できるように考えています。協力して企画してくださる方歓迎します。

樋口明朗（S43 経）

カラオケ会

コロナ禍で長く休止していましたが、今年度は 2 回くらい実施したいと考えています。計画が固まりましたら事前に愛好者にご連絡いたします。

牛島康朗（S40 政）、皆川雅紀（S49 政）

観桜会と**小平三田会作品展**は別ページにて詳細をご案内しております。
会期が迫っておりますので、奮ってご参加下さい。

編集委員会

お花見会を開催します

　だんだん暖かくなり春めいてまいりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
　コロナ禍により活動が制限されておりましたが、ようやく日常が戻りつつあると感じます。そこで、長らく中止していた「観桜会」を再開いたします。一般的にお花見といえばソメイヨシノですが、今回は趣向をかえてヤマザクラ、サトザクラ、オオシマザクラなどのかわり桜を楽しみたいと思います(ソメイヨシノの頃は非常に混雑するため、密を回避するという意味もあります)。 また、久しぶりの開催なので会員間の友好を深めるため今回は西東京三田会単独での開催といたします。近くに遊具などもあり、小さなお子さんも楽しめると思います。
ぜひ、ご家族みなさんでご参加ください。
初参加も大歓迎です。

記

１．日　時　　2023 年 4 月 9 日（日）11：00～14：30 頃（雨天中止）
　　途中参加や退出も自由です

２．場　所　　都立 小金井公園「桜の園」公園最西端なかよし広場付近
　　（小金井街道側の西口からすぐ）
＊西東京三田会の幟旗を目印にお集まりください

アクセスは、下記公式ホームページをご覧ください
アクセス・駐車場｜小金井公園｜公園へ行こう！（tokyo-park.or.jp）

３．会　費　　大　人：ひとり 1,000 円（20 歳以上）お弁当・缶ビール等 1 本付き
こども：ひとり　500 円（小学生～20 歳未満）お弁当・飲料 1 本付き
乳幼児、未就学児は無料
食べ物、飲み物のお持ち込みも歓迎いたします

４．注意事項　　・小学生未満の方のお弁当はご用意いたしません
お手数ですが、各自でご準備くださいますようお願いいたします
・ゴミは各自でお持ち帰りいただきますようお願いいたします

５．参加申込　　４月５日までに下記項目を下記連絡先へご連絡ください
・代表者氏名
・参加人数　　記載例　：　大人　○人、こども　○人

６．連絡先　　西東京三田会　nishitokyo.mitakai@gmail.com
お花見担当：横田　yokokinhello@yahoo.co.jp　070-4069-8946

７．当日連絡先　お花見担当：横田　070-4069-8946　　以上

第 6 回小平三田会作品展へのお誘い

コロナ禍の中でも、なんとか継続してきた作品展は、今年も開催予定です。
昨年の第 5 回は、西東京三田会、小平稲門会の協賛のもと、小平 8 名・西東京 2 名・稲門会 4 名の計 14 名の出品参加がありました。油彩・水彩・パステル・書・写真・立体等 37 点のバラエティーに溢れ、また、格調ある展示となりました。
今年は下記の概要で開催します。どうぞ出品参加をご検討ください。常連の方以外のご参加もお待ちします。また、期間中出品参加でない方のご来場も歓迎です。
コロナも一定の落ち着きを見せています。今年は広報にも少し力を入れていきます。

第 6 回小平三田会作品展概要
日時：2023 年 6 月 13 日（火）～18 日（日）
10:00～17:00　最終日 16:00 まで　一般公開は 14 日～18 日
搬入＝6 月 13 日　13 時　　搬出＝6 月 18 日 16 時
会場：小平市中央公民館 ギャラリー
参加費：1000 円　（今回は集金します）
詳細は別途お知らせします。

問い合わせ先：　小平三田会アートクラブ
世話人　吉川 潔　090-3500-8325　yoshikawa@kiyoshi.sakura.ne.jp
(西東京三田会会員・小平三田会顧問)　(S46 経)

西東京三田会　会員インタビュー

第１回　田無神社の宮司賀陽智之さん

（神職装束の賀陽さん）

賀陽智之さんは昭和 60 年（1985 年）旧田無市で生まれ、田無小学校、田無第二中学校、國學院高等学校を経て北里大学医療衛生学部を卒業、その後慶應義塾大学大学院 医学研究科（衛生学公衆衛生学教室専攻）に入り、平成 23 年（2011 年）に修士課程を修了されました。

その後ドイツに本社のある通信社の日本支局に入りましたが、その直前に東日本大震災が発生し、入社直後からそこの記者と一緒に震災直後の東北地方を苦労しながら二か月余り取材したとのことです。そしてそこでの経験が現在の田無神社の宮司としての礎になっています。

ただ父である6代目宮司の賀陽濟（かや　わたる）氏が2年後ガンで急逝し、急遽平成25年（2013年）に 7 代目宮司に就任し現在に至っています。

田無における賀陽家は、初代賀陽玄雪氏が文政 2 年（1819 年）備前岡山藩第 5 代藩主の池田斉政侯の侍医を辞め諸国修行に出て、途中文政 6 年（1823 年）にここ田無に立ち寄ったところ名主の下田半兵衛富宅に懇願され、田無の村医としてここに残ることから始まっています。

玄雪の息子である賀陽濟（玄順）氏が長じて田無の村医となり、同じく医師であった田中良伯氏と共にここ田無に手習所を作って、農村子女の教育にあたっています。その後明治 5 年（1872 年）8 月の学制発布で手習所は無くなり、刑部真琴氏が作った真誠学舎へと引き継がれ、更にそれは現在の田無小学校へとなっていきます。このように田無の子女教育にとって賀陽家の存在は大変大きなものであったことが見て取れます。また同年には尉殿権現社が田無神社と改められ、濟氏が初代宮司となりました。

そしてそれは 2 代目宮司賀陽尚賢氏、3 代目宮司賀陽通利氏、4 代目宮司賀陽賢司氏と引き継がれていきます。

その中で 4 代目の賀陽賢司氏は若くして海軍に入隊し、第一次世界大戦後のシベリア出兵に動員されています。帰還後は田無役場で職員となり、昭和 33 年（1958 年）には田無町長になっています。その時の話として現在の西東京市ひばりが丘は田無町長で宮司の賢司氏が命名されたと当時の新聞は伝えています。

そして 5 代目宮司賀陽瑞穂氏、6 代目賀陽濟氏と続きますが、この 6 代目賀陽濟氏は千葉大学医学部を卒業し、初代以来の医師となり、宮司と精神科の医師を兼務してきましたが、前述のように平成 25 年（2013 年）59 歳という若さで亡くなられ当代に至っています。

ここまでが賀陽智之氏と賀陽家、田無神社の歴史ですが、最後にこれからの田無神社、令和 2 年（2020 年）に御遷座 350 年を迎えて、これからの御遷座 400 年に向けてのお考えを 7 代目宮司賀陽智之氏に聞きしました。

「今後はどのように若い世代にバトンタッチをしていくかが大きな課題です。歴史の伝承、お祭り、お神輿、お囃子やお神楽などを若い世代に伝え、若い世代とのコミュニケーションを取りながら、田無神社を伝えていくことが大切だと考えています」

（令和５年２月 16 日　田無神社にてお話をお聞きしました）

（田無神社　例大祭）

（田無神社　参道から本殿を見る）

（御遷座 350 年大祭記念誌）

WBC 観戦記

会員寄稿

佐藤貢一（S48 経）

〇私の野球遍歴

私が小学生の頃、都電の 16 番系統というのが春日通りを大塚駅から厩橋まで走っていて、その沿線に住んでいたものだから、都電一本で行ける後楽園にはよく出かけた。

後楽園球場*1のそばに遊園地もあり、そこにはたしか釣り堀やお化け屋敷があった。富坂下には講道館*2もあった。

時代的には、金田正一*3が国鉄スワローズ*4のエースで、昭和 33 年東京読売巨人軍*5に入団した長嶋茂雄は開幕戦で金田に 4 打席連続三振を喫する。これはつとに有名。王貞治や村山実*6は翌年の入団になる。私は言うに及ばず巨人の大ファン。長嶋の巨人軍入団を契機にプロ野球に興味を持ち夢中になった。あの頃の小学生はほぼ全員ジャイアンツの野球帽をかぶっていた。

しかし、今はすっかり MLB にシフトしてしまい、日本のプロ野球はすっかりご無沙汰だ。

球場もドーム球場になってしまった。全天候型で空調の整った人工芝球場は快適ではあるが、野趣に欠け興を削ぐ。特に巨人戦のあの騒々しい応援はいったい何だろう。鳴り物が屋根に反響して大音響となり私には耳障りなだけで、益々足が遠のいてしまった。

今や足を運ぶのは神宮球場*7が主であり、春秋の六大学野球や夏の高校野球の都予選、たまのヤクルト戦など、いずれにせよ青空の下の野球観戦が性に合っている。

〇いざ、東京ドームへ

そんな私が 20 数年ぶりに東京ドームに足を運ぶこととなった。理由は単純で「WBC のチケットがたまたま入手できた」から。更に幸運だったのはそのチケットが大会初日のものだったこと。大谷翔平選手がリアル二刀流で先発すると知った時にはわが耳を疑った。これでは行かないわけにはいかない。

さて 3 月 9 日。木曜日。暑いくらいの陽気である。

水道橋駅の改札を出ると球場周辺まで、物販の行列があちらこちらに。どこもかしこもヒト、ヒト、ヒト。

11 時 55 分、一塁側内野席 21 番ゲート入場のための列の最後尾に並ぶ。行列は延々数百メートルにも及び、35 分ほど並んでようやくゲートにたどり着く。ここで、検温、消毒、荷物検査、金属探知機によるボディーチェックとものものしい。これでは長蛇の列も必然か。更に入場してからも通路はごった返していてあちこちになぜ

か行列ができている。

第一試合は自由席なので適当に見当をつけて席に着いた時、オーストラリア対韓国戦はすでに 3 回の表だった。

三塁側、ダッグアウトの上に韓国の応援団が陣取り、人数はさして多くもないのにものすごく熱い応援を展開している。しかし、球場全体からみると圧倒的にオーストラリアへの声援や拍手が多い。

これは、力が拮抗し長年のライバル関係にある韓国が負ければ、予選で優位に立てる日本側の思惑と判官びいきの故かもしれぬが、思うに、大統領が代わり、今、ようやく日韓両国の友好ムードが築かれようとしているのだから、もう少し韓国側にエールを送ってもいいじゃないか、と突っ込みたくもなる。

この試合、一度は逆転されたオーストラリアが、再度逆転して 8 対 7 の接戦を制した。なかなかの好ゲームで得した気分。

ゲームセットと同時にアナウンスが入り皆が指定席に移動する。いよいよ日本対中国戦だ。日本代表は一塁側。そして私の席はダッグアウトの少し右側の前から 7 列目。選手がかなり間近に見える。4 時過ぎから徐々に選手がグラウンドに姿を現し始める。まず発見したのは、大谷の相棒の水原一平通訳だった。吉井コーチと佐々木朗希が 4 時 25 分頃登場。ほどなく打撃練習が始まった。村上宗隆が外野スタンドにポンポン大飛球を放り込むのは納得だが、村上と組んで交代で打席に入るさして大きくはない背番号 34 の選手も負けじとスタンドに放り込む。

隣席の若者に「あの背番号 34 は何という選手？」と問うと、「吉田正尚」とのこと。そうか、彼が今年からレッドソックスでプレイする吉田選手なのか、道理で、と納得する。

NHK「球辞苑」でおなじみの里崎（解説者）がベンチ前で談笑している。前を通ったダルビッシュ有が深々と頭を下げて通る。球界も上下関係は厳しいのだな。よくみると「ワンちゃん（イヌではないよ）」*8 もいる。

ふと気がつけば 2 階席も 3 階席もどんどん埋まってきて試合開始頃にはほぼ満員。

ちょうどその頃、勤務を終えた娘が到着。本日のパートナー。早速、生ビールで乾杯。

サッカーの森保監督の始球式でプレイボール。先頭打者のヌートバーが初球を狙いヒットを放つと、動揺した投手が四球を連発するのに日本代表も序盤は歯がゆい攻めが続く。しかし、源田やヌートバーの好守もあり徐々に歯車があってきて後半加点し終わってみれば 8 対 1 の快勝だった。

試合経過は TV 生中継や翌日の新聞、ニュース等でよくご存じと思うので詳細には触れないが、球場全体がすごい熱気。これが国際試合というものなのだろう。

ここで大谷選手についても触れておこう。

この日、大谷は先発兼指名打者で三番。背番号 16 がマウンド上で躍動し、打席では鋭いスウィングで、打っ

ても空振りでも観客をうならせる。大谷の一挙手一投足に大歓声があがる。1 球投げるごとに球場全体がどよめく。

大谷をみていると、よく塁上などでタイムの時に相手チームの選手や審判と談笑している。あれはむしろ審判や他の選手の方が接近してきている様に見える。

みるからに好青年である。野球選手として一流のプレイヤーであるのはもちろんだが、その前に人としての立ち居振る舞いや態度がしっかりしていて嫌味がない。

野球が好きで好きでしようがない、というのが彼のプレイ全体から滲み出ている。灰田勝彦（立教 OB の歌謡歌手）*9 の「野球小僧」（“野球小僧は腕自慢、凄いピッチャーでバッターで”…の歌詞）そのものだ。

〇闘いすんで終電車

10 時 50 分試合終了。一流選手たちの競演は時の経過を忘れさせた。

この日のヒーローインタビューはやはり大谷。投げては 4 回を 1 安打 5 奪三振、打っては 2 安打 2 打点 2 四球の活躍であれば当然だろう。

11 時をとっくに回っているのに、娘は一向に帰ろうとは言わない。

娘はこの日のために買い求めたという双眼鏡で“大谷君”を追っかけている。写真を撮りまくっている。やはり目当ては大谷選手だったようだ。「恰好いいね。素敵」を連発している。

シーズン中であれば遥か海の向こうにいる、BS の大リーグ中継でしか見ることのできない男をこんなに間近で見ることができるのはやはり僥倖としか言いようがない。

インタビューが終わり、ようやく帰途に就こうとすると、十数人もの車いす利用者が通路でトイレ待ちの行列をしていた。これからどうやって帰るのだろう？　終電車には間に合うのかな？　と気になった。

帰りは水道橋から一駅乗り、東西線飯田橋経由で 11 時 46 分高田馬場発の本川越行き最終に乗り帰宅したのは 0 時 30 分だった。

熱気と興奮冷めやらず、深夜テレビを見ながら 2 時半までブランデーをちびちびと舐めた。ドーム滞在 11 時間余り。こうして長い一日が終わった。

さて、このニュースレターの発行（4 月 1 日）の頃には WBC の結果がとうに出ている。どうぞ日本代表チームに栄冠が輝いていますよう…。

編集委員注釈

＊1 現東京ドーム、＊2 柔道の総本山、現在は文京区春日 2、＊3 故人、日本プロ野球唯一の 400 勝投手、＊4 現東京ヤクルトスワローズ、＊5 読売ジャイアンツ、＊6 故人、阪神タイガース、＊7 明治神宮野球場、＊8 王貞治の愛称＊9 故人、旧保谷市に居住していた

小平三田会の会長を務められ、昨年秋から西東京三田会に復帰して下さいました吉川潔さんは、ご存知の方も多いと存じますが「チェコ通」としても知られています。ご本職は人形の製作をされている芸術家でいらっしゃり、1974～75 年にプラハにある芸大の演劇学部人形劇科で美術・演出を勉強されました。実は、チェコは世界でも屈指の人形劇メッカであるとのことです。
そうしたご縁で、以前から日本とチェコの架け橋的な活動をされてきました。今般 WBC の予選リーグプール B にチェコチームが出場しましたが、試合後にチェコ大使館で選手団を囲んで行われたレセプションに吉川さんがご招待されました。
その情報を聞きつけた西東京三田会ニュースレター編集委員が、レセプション直後吉川さんに電撃取材をさせて頂き、チェコチームとの交流をはじめ、チェコの様々なことを語って頂きました。

チェコと野球の関係・・・・

編集委員 A
　今回、チェコ大使館でのチェコチームを囲むレセプションに吉川さんがご出席されたというお話を伺い、驚きと同時に、三田会の仲間として非常に嬉しく、誇らしく感じました。
　率直な感想として、チェコチームが世界大会に出場する程野球が盛んであることを失礼ながら存じ上げておりませんでした。私達は、チェコの主力スポーツはアイスホッケーやノルディック系のスキー競技だと思っていたのですが、以前から野球は盛んなのですか。

吉川さん
　第一次大戦後 1920 年頃、アメリカから野球が入ってきたようですが、その後第二次大戦後は東欧圏に入ったため、敵国側のベースボールは冷遇されていたようです。

編集委員 B
　日本の野球の始まりは、横浜の外国人居留者とアメリカ軍艦の乗員とで行われた試合だったと言われてますよね。明治維新の前年ですね。翌年（1872 年）には日本人学生の間で野球が広がりました。

編集委員 A
　チェコに野球が伝わった頃には日本運動協会というプロ野球の前身が産まれてますね。確か 1920 年頃ですね。そのチェコが WBC の欧州予選を通過し、東京ドームまで遣って来たことは素晴らしいことですね。

吉川さん

確かにチェコに伝わったのも遅く、敵国側スポーツとして冷遇されていたことを考えると、現在の実力は凄いですね。私が滞在していた当時は、野球は全く見ませんでした。仰る通り、チェコの人気スポーツは、アイスホッケー、スキー、サッカー、テニス、カヌーなどです。当時、まともにソ連と戦うことが出来たアイスホッケーの国民的人気は大変なものでした。

編集委員 B

冬季オリンピックでチェコ（当時はチェコスロバキア）とソ連の試合は世界中の関心を集めていました。チェコの選手が闘志を剥き出していたことを思い出します。

吉川さん

今回の WBC でのチェコチームの活躍で、野球のランクは上がりそうですね。

全員二刀流のチェコチーム

編集委員 A

チェコチームとの対戦前、マスコミに「チェコチームは全員二刀流」という記事が掲載されていました。野球で二刀流と言えば、大谷選手と自動的に思ってしまうのですが、チェコチームの二刀流とは、ほぼ全員が野球以外の職業を持っているという意味なのですね。

編集委員 B

吉川さんから見て、チェコチームの方々が別の職業をお持ちだということをどう見られますか。私達からすれば、かなり皆さんが無理をされていると思ってしまうのですが。

吉川さん

現状はよく判りませんが、私が居た当時は社会主義時代であったこともあり、仕事に対する取組みは概して緩いものでした。今は変わってきたかと思いますが、沁み付いた体質が少々残っているかもしれません。

しかし、教師の方、IT 技術者の方、金融スペシャリストの方等々皆さん様々な職業に就かれていて、仕事と野球を両立させていることは凄いことだと思います。日本人が考える二足の草鞋ほど、彼等にとっては大変なことではないのかもしれません。苦労を内に秘めているのかもしれません。

編集委員 A

歴史的に長らくソ連に弾圧された経験から、そうした我慢強い性格が培われたのかもしれませんね。

吉川さん
　きっと野球に賭ける情熱は仕事以上かもしれません。

チェコチームの方々の体型は？

編集委員 B
　チェコチームの選手は TV で拝見する限り、あまり大柄の選手は多くなかったという印象がありますが如何ですか。

吉川さん
　チェコ人は、ゲルマン系、スラブ系、マジャール系と多様な民族が入り乱れてます。そうした事情から選手の体型も多様だと思います。そんな中で、おしなべて投手陣は長身の選手が多いという印象を持ちました。190 ㎝以上の方もいらしたと思います。

編集委員 B
　佐々木朗希投手の投じた 162 ㎞の剛速球がデッドボールとなった選手は、逆に小柄なようでしたね。

吉川さん
　そうですね。デッドボールを受けたエスカラ選手は比較的小柄で、監査役という職業との二刀流のスモラ選手共に小柄な内野手でした。ご一緒に記念写真を撮って頂きましたが、並んだ感覚から 170 ㎝台位だと思いました。

チェコチームの選手のメンタリティー

編集委員 A
　今回のチェコと侍ジャパンとの一戦後、対戦に勝利した日本チームに対し、チェコチームの選手達がエールを送って下さいました。その報道に、日本人はチェコ選手の行為に大きな反響がありました。吉川さんから見て、チェコ人はどんなメンタリティーなのでしょう。

吉川さん
　あの行動は、日本チームのクオリティーの高さに対して純粋にリスペクトし、心から敬意を表し、祝福したものだと思います。その思いは、ベースとしてチェコ人が日本人に対し好意的であることの証左でもあると思います。そして、工業国であるチェコは、日本の工業力や技術力、そして日本人の勤勉さに対し尊敬の思いを持っていると思います。それがあのような形に現れたのではないかと思います。

編集委員 B

私もそれを実感できます。短い期間でしたが、偶々今年の１月にチェコを訪問しました。その時、チェコ人の親切さ、フレンドリーさに接しました。重いバックパックを背負ってしゃがもうとした際、よろけてしまったのですが、複数の方々が助けようと声掛けして下さいました。また、スーパーマーケットの店員の態度や物腰がとても優しく感じましたし、買い物の際に品物の場所を聞くと、親切丁寧に教えてもらい、本当に感激しました。

吉川さん

国民性という点では、チェコ人はどこか日本人に似ている点もあると思います。過度の自己主張をしなかったり、出来なかったりするところも似ているのではないでしょうか。人形劇が発達し、人形劇が果たした役割も、チェコの歴史環境と共に、チェコ人の国民性に沁み込んでいるように思います。

編集委員 A

随分前のことですが、チェコは日本のどの地域と比較出来るかを調査したことがあります。地域の面積、地域の人口という点から考えると、ほぼ東北地方（6 県）と近いものがあります。海の有無や産業構造は少々異なっていますが、厳しい冬の気候は共通しており、チェコ人の粘り強い性格と東北人の性格が非常にピッタリくるという纏め方をしたことがあります。それは今、吉川さんが仰ったチェコ人のメンタリティーと符合しますね。

吉川さん

チェコ人と日本人、本当に似ている処が多いと思います。侍ジャパンがマイアミに移動する時、大谷選手がチェコチームの帽子を被っていたと報道されました。チェコ人も大喜びでしょうね。

編集委員 A

デッドボールを投げてしまった佐々木朗希投手がお菓子を一杯持って、エスカラ選手を訪問したニュースも嬉しかったですね。

編集委員 B

私もチェコに対し、とても好印象を持ちました。是非再訪したいと思います。今回の WBC を経て、両国の関係が更に深まることを期待したいですね。

編集委員 A

吉川さん、今回は貴重なお話を沢山伺わせて頂き、本当に有難うございます。これからも日本とチェコの架け橋としてご活躍下さい。それではチェコビールでも飲みに行きましょう。乾杯！

以上

編集後記

ニュースレター28 号の編集を終えて一息ついたというのが今の状況です。

今回のニュースレターは電子化の第二弾、3 ヵ月に一度出していくという編集方針の中での二回目のニュースレターでした。特に今号は年度末ということもあり、当初はそれほど掲載する記事もないだろうと思っていましたが、蓋を開けてみると日本が優勝した WBC で国内は過去にないほど盛り上がり、それに伴う記事を二つ掲載しました。佐藤さんの観戦記、吉川さんとのチェコに関する対談です。更に今号から始まった会員インタビューと予想以上の内容となりました。

3 月現在、西東京三田会には 117 名の会員がおられますが、その方々は昭和 28 年卒業から平成 31 年卒業までと実に 65 年の幅があります。今後もその幅広い方々すべてにご満足していただけるような内容の記事を掲載していくことを常に思いつつ、編集委員 6 名で知恵を絞りながら発行を続けて参ります。

どうか皆様からも積極的な寄稿、そしてとっておきの企画のアイデアをお寄せ頂ければ私達編集委員は望外の悦びです。

編集委員

井上京子、行田健二、高橋幸三、横田均、森茂樹、大内俊

令和 5 年 3 月 31 日